



二十四節気



季節の移り変わりの目に二十四節気(にじゅうしせっき)という言葉を目にするとおもいます。

調べてみると二十四節気とは太陰太陽暦で暦日と季節を合わせるために設けた12個の中気と12個の節気のことです。1年の太陽の黄道上の動きを視黄経の15度ごとに24等分して決められていて、「夏至」と「冬至」の二至と「春分」「秋分」の二分を合わせて二至二分といい、「立春、立夏、立秋、立冬」を四立、二至二分と四立で八節というそうです。毎年日付は変わるものなので、今年一年の二十四節気を書いてみましたので、参考にして頂ければと思います。

○小寒(しょうかん) 1月6日、小寒は「寒の入り」(かんのいり)でこれから更に寒さが厳しくなる。小寒から節分までが「寒の内」。「寒中見舞い」は小寒から。1月1日の元旦から一般的には1月7日までを松の内。関西では1月15日まで。

○大寒(だいかん) 1月20日、大寒は冬の最後の節気。寒の内と呼ばれ一年で最も寒さが厳しい。

○立春(りっしゅん) 2月4日、春の始まりであり、1年の始まりとされる日。

○雨水(うすい) 2月19日、空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶けて水になる、雪解けが始まる頃。草木が芽生える頃で、農耕の準備を始める目安とされていた。

○啓蟄(けいちつ) 3月5日、寒さが緩んで春の陽気に土中で冬ごもりをしていた生き物たちが目覚める頃。

○春分(しゅんぶん) 3月20日、昼と夜が同じ長さになる日。

○清明(せいめい) 4月4日、暖かい春になることや、清らかで生き生きとした様子。

○穀雨(こくう) 4月19日、春雨が百穀を潤す。

○立夏(りっか) 5月5日、1年でもっとも爽やかな季節。春分と夏至のちょうど中間。

○小満(しょうまん) 5月20日、万物がすくすくと生長し、天地に満ち始める頃。

○芒種(ぼうしゅ) 6月5日、稲や麦など芒(のぎ)のある作物の種を播く時節。

○夏至(げし) 6月21日、日の出から日の入りまでの時間がもっとも長い日が夏至。

○小暑(しょうしょ) 7月6日、梅雨も明けて雲の隙間からの陽射しも強くなり風も熱気を帯びて夏らしく感じる季節。小暑から立秋までを「暑中」と呼びこの時期に送る葉書が「暑中見舞い」。

○大暑(たいしょ) 7月22日、最も夏らしく暑い時期。

○立秋(りっしゅう) 8月7日、夏から秋への変わり目の時期で、秋の風を感じる頃。「暑中見舞い」から「残暑見舞い」に変わる。

○処暑(しよしょ) 8月22日、日中は暑い日も多いが暑さが和らぎ穀物が実り始める。

○白露(はくろ) 9月7日、白露「しらつゆ」のこと。露がこごり白く見えるという意味。

○秋分(しゅうぶん) 9月22日、お彼岸の中日で、太陽が黄経180度の秋分点を通過する日。

○寒露(かんろ) 10月8日、野草に宿る冷たい露。朝晩の冷え込みは厳しくなる。

○霜降(そうこう) 10月23日、朝霜が見られる頃。朝晩の冷え込みが厳しい。

○立冬(りっとう) 11月7日、暦の上ではこの日から冬の季節。

○小雪(しょうせつ) 11月22日、冬に入ったがまだ雪が少ない。

○大雪(たいせつ) 12月7日、平野にも降雪のある頃。

○冬至(とうじ) 12月21日、夏至とは反対に一年で最も昼が短い。

日本人が豊かな自然を繊細に感じて、自然と一体となって生活を営んでいたことが伺えますね。



FROM-ZERO 通信は弊社のお取引先の皆様に毎月配布させていただいている情報誌です。



株式会社 オフィスゼロ

〒963-0201 福島県郡山市大槻町字下町128

TEL 024-962-4709 FAX 024-962-4710



<http://www.office-0.co.jp/>

Web サイト スログ